

たんぱく質の安定調達・供給への貢献と 環境課題の解決に向け挑戦を続けていきます

ニッポンハムグループは、企業理念の一つに、「わが社は、『食べる喜び』を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。」を掲げ、創業以来、人が生きるうえで欠かせない栄養素であるたんぱく質をお届けしてきました。今後、世界人口が増加し、たんぱく質の需要に対して供給が不足すると予想される中でも、日本最大級のたんぱく質供給企業グループとしての社会的使命を持ち、安定供給を目指しています。その意志を「Vision2030」の“たんぱく質を、もっと自由に。”という企業メッセージに込め、新たな挑戦を続けています。

挑戦の一つ目は、たんぱく質の安定調達・供給への貢献です。当社グループは、牛・豚・鶏の農場を持ち、「生命の恵み」をいただいて事業を営んでいます。しかしながら日本の畜産業は飼育者の高齢化や人手不足が深刻化し、労働生産性の向上や技術継承が求められています。そこで、AI・IoTを活用した養豚のサポートシステム「PIG LABO®（ピググラボ）」を開発し、畜産業の課題解決に取り組んでいます。また、動物福祉の観点より、家畜のストレスを軽減するアニマルウェルフェアへの配慮を進めています。さらに世界的な食肉需要の増加に対応すべく、既存事業による安定調達に加えて植物由来たんぱく質商品や細胞性食品（培養肉）など、新たなたんぱく質の実用化にも挑戦しています。

二つ目は、環境課題解決への挑戦です。各拠点への太陽光発電の導入や家畜の排せつ物の資源の有効利用、さらに牛のげっぷに含まれるメタンガスなど畜産由来の温室効果ガス排出量抑制につながる研究など、取り組みを進めています。加えて、海洋プラスチック問題などに対して商品の包装を見直し、使用量の削減に取り組んでいます。

時代の変化に応えるため、社会課題を的確にとらえ、またお客様に求められるものを常にキャッチし、当社グループらしいサステナビリティを体現する商品を提供していきます。

これらの挑戦を実現するためには、さまざまな知見や視点が欠かせません。社内と社外パートナーとの「共創」を軸に、グループ一体となり新たな価値を創造します。

もう一つの企業理念にある「従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場」となるよう、従業員の成長を支援する人財育成と、多様な人財が生き生きと活躍できる職場づくりを両輪で進めます。今後も、社会と従業員にとって、なくてはならない企業グループを目指して挑戦を続けていきます。

代表取締役社長

井川 伸久



持続可能な社会を目指して 食の未来を創造します

取締役 常務執行役員（サステナビリティ担当取締役）

片岡 雅史

社会課題の解決に挑戦

ニッポンハムグループは、サステナビリティ戦略と事業戦略を両輪で推進し、社会課題の解決と企業価値の向上に挑戦しています。2021年4月に「Vision2030」“たんばく質を、もっと自由に。”を策定するとともに5つのマテリアリティ（重要課題）を特定し、目標達成に向けて一步一步取り組んできました。その中でも特に現在注力すべきと考えているのが、「気候変動への対応」「持続可能な畜産への貢献」「人財育成」の3つです。

気候変動への対応

「気候変動への対応」については、化石燃料由来のCO₂排出量の削減と、家畜由来の温室効果ガスの抑制・削減という2つの目標を掲げ、トータルでの温室効果ガス削減を目指しています。化石燃料由来のCO₂排出量は2030年度までに、国内では2013年度比で46%以上、海外では2021年度比で24%以上削減するという目標を掲げ、工場内の高効率機器への入れ替えや太陽光発電の設置などの設備更新を進めています。



家畜由来の温室効果ガスについては、国内の大学などと産学連携で共同研究を進め、メタンの発生抑制と排出されたメタンの回収の双方向からの削減を目指します。

プラスチック使用量削減のため、商品の包装も見直しています。例えば「シャウエッセン®」の包装を簡易化したことでプラスチック使用量は28%カットでき、結果として年間のCO₂排出量の削減にもつながりました。

持続可能な畜産への貢献を目指す

「持続可能な畜産への貢献」を実現するには、畜産農家の存続が不可欠です。当社グループでは、AIやカメラなどを用いて養豚をトータルでサポートするシステム「PIG LABO®(ピグラボ)」を開発しています。そのサービスの一つである、豚の発情を検知する「PIG LABO® Breeding Master」を用いて母豚で実証実験を行った結果、受胎率が改善し、飼育員による判定作業量を削減できました。個人農家の飼育環境の把握や改善にもつながり、今後の商品化によって畜産農家の持続可能性向上に貢献できると考えています。

アニマルウェルフェアについては、ポリシーとガイドラインを制定し、定量的な目標を設定し、さらに管理要領や作業手順を用いて運用を図っています。また、

農場従業員に対し、アニマルウェルフェアや作業手順書についての社内講習会を行い、周知をしています。

持続可能なたんぱく質商品の拡充

今後は、世界人口の増加や漁獲量の減少から、動物性のたんぱく質不足が予測されており、これを補うにはフードテックが欠かせません。当社グループは、牛肉や魚肉の代わりに植物由来の材料をベースにした「大豆ミート製品」を拡充しており、外食産業への採用も拡大しています。2023年3月には、独自の技術で本物に近い食感と味を再現した「ナチュミートフィッシュフライ」を発売しました。また、持続可能なたんぱく源である細胞性食品(培養肉)についても開発を進めています。2022年10月には、細胞性食品の培養液の主成分を動物の血清から一般に流通している食品成分に置き換えることに成功し、量産化に向けて前進しています。

人財の力を高め柔軟な組織に

「人財育成」については、基礎研修や目的別研修、キャリア開発を含めた多様な教育機会を設け、専門知識の習得とマネジメント能力の育成を両軸で進めて

います。個の成長が組織の成長につながるとの考えのもと、個々の適性に応じたスキルアップと活躍の場を提供し、多様性のある柔軟な組織をつくります。また、人財に関するKPIマネジメントを推進し、開示範囲の拡大を図ることで、効果的な人財戦略の実行に努めてまいります。

当社グループの最大の使命は、たんぱく質の供給責任を果たすことです。その実現に向けてさまざまな社会課題へのソリューションを見出し、食の未来創造に挑戦します。

